

はじめに

序 章 古典／現代法から法思想史を学ぶ意義 1

- 1 法思想史とは何か? 1
- 2 現代の日本法と法思想史 4
- 3 本書の概要 5

第Ⅰ部 古代・中世の法思想

第Ⅰ章 自然法思想の誕生
——アリストテレスの自然法思想 13

- 1 ソフィストの自然法思想 14
 - (1) ギリシア・アテナイの民主政 14
 - (2) ソフィストと自然法の視点 15
- 2 ソクラテスとプラトン 17
 - (1) ソクラテスと悪法 17
 - (2) プラトンのイデア論と『国家』 20
- 3 アリストテレスと自然法, 正義 23
 - (1) 人間の自然と自然法 23
 - (2) アリストテレスの正義論 27

ま と め 31

第Ⅱ章 自然法思想と実定法——自然法とローマ法 33

- 1 ヘレニズム時代のギリシア哲学 33
 - (1) 地中海世界の変容 33

(2) ストア派	35
(3) エピクロス派	36
(4) 懐疑派	37
2 ローマの法思想①——共和政期を中心に	38
(1) ローマ人の特性	38
(2) ローマ法の厳格さと属人主義	38
(3) ローマの拡大と法の変容, 法務官の活躍	40
(4) 法学者の役割	42
3 キケロの自然法思想	42
(1) キケロとローマの政治	42
(2) 国家, 法についての思想	43
4 セネカの国家, 法に関する思想	43
5 ローマの法思想②——元首政期	48
(1) 自然法, 万民法, 市民法の意味	49
(2) 具体的な問題①——代物弁済の問題	50
(3) 具体的な問題②——危険負担の問題	50
6 ローマ法のその後	51
ま と め	52

第3章 自然法思想とキリスト教

——アウグスティヌスとトマス・アクィナス 54

1 アウグスティヌスの保守的自然法思想	54
(1) キリスト教とローマ帝国およびフランク王国	54
(2) キリスト教への回心	55
(3) アウグスティヌスの国家論	57
(4) アウグスティヌスの法理論	60
2 アクィナスのキリスト教的自然法思想と抵抗権	63
(1) 叙任権闘争と12世紀ルネサンス	63
(2) 神学と哲学の研究	65
(3) アクィナスの国家論	65
(4) アクィナスの法理論	66
(5) アクィナスの抵抗権論	69

(6) アクィナスの正義論	70
ま と め	72

第Ⅱ部 近代法思想の誕生

第4章 近代自然権・自然法思想 ——ホッブズ、ロックと近代国家 77

1 ホッブズの自然権思想	78
(1) ホッブズの自然状態と自然権	78
(2) ホッブズの自然法と国家	82
2 ロックの自然法思想	87
(1) ロックとフィルマー	87
(2) ロックの自然法と自然権	89
(3) ロックの抵抗権論	93
ま と め	96

第5章 自然法思想から人民主権論へ ——ルソーの社会契約論 98

1 自然法論とルソー	99
(1) 自然人・自然状態・自然法	100
(2) 社会状態と自然法	102
(3) 自然法の拘束力	103
2 ルソーの法思想——『社会契約論』	105
(1) 国法の原理	105
(2) 『社会契約論』の課題	105
(3) 先行理論批判	106
(4) 社会契約の性質	107
(5) 一般意志論	110
(6) 主権論	112
(7) 主権と統治の区別	114
(8) 人民集会	116

(9) 主権の制限	117
ま と め	120

第6章 近代市民革命後の法思想 ——カント、ヘーゲルのドイツ観念論 122

1 カントの法思想	123
(1) カント法思想の著作と課題	123
(2) 自由の哲学	124
(3) 適法性と道徳性	125
(4) 法の定義	126
(5) 私法論	127
(6) 公法論	129
2 ヘーゲルの法思想	133
(1) ヘーゲルとフランス革命	133
(2) ヘーゲル『法の哲学』の課題	134
(3) ヘーゲルの自由意志論と法哲学の構成	135
(4) 抽象法	137
(5) 道徳性	138
(6) 人倫①——家族と市民社会	138
(7) 人倫②——国家	141

ま と め	145
-------	-----

第Ⅲ部 近・現代の法思想

第7章 ドイツにおける法実証主義 ——歴史法学、概念法学から自由法運動へ 149

1 法典論争と歴史法学派	150
(1) ナポレオンの支配からウィーン体制へ	150
(2) 法典論争	151
(3) 歴史法学派の形成	154
2 歴史法学からパンデクテン法学・概念法学へ	155

3	ドイツ民法典の制定	159
4	自由法運動の法解釈論	160
	(1) イェーリングの「概念法学」批判	161
	(2) 自由法運動	164
	(3) ヘックの利益法学	166
	ま と め	168

第8章 イギリス型法実証主義の確立

——ベンサムとオースティンの自然法批判 172

1	ベンサムの自然法, 自然権批判と法実証主義	173
	(1) ベンサムの時代のイギリス	173
	(2) ベンサムの自然法論・自然権論批判	174
	(3) ベンサムの功利主義と法実証主義	180
2	オースティンの法実証主義と分析法理学	184
	(1) ベンサムとオースティン	184
	(2) オースティンの法実証主義と分析法理学	186
	ま と め	189

第9章 アメリカの法思想

——自然権思想, 歴史法学からリアリズム法学へ 192

1	アメリカ独立期の法思想	193
	(1) アメリカ独立宣言とジョン・ロックの自然権思想	193
	(2) 違憲審査制と法思想	196
2	法形式主義の時代	198
	(1) 歴史法学	198
	(2) ラングデルのケース・メソッド	201
3	プラグマティズム法学とリアリズム法学	202
	(1) ホームズ, パウンドのプラグマティズム法学	202
	(2) リアリズム法学	207
	ま と め	211

第10章 現代の日本法と法思想史——まとめにかえて 213

- 1 憲法とのかかわり 213
 - (1) アメリカ、イギリスの憲法と自然権・自然法思想、法実証主義 213
 - (2) 日本国憲法、ドイツの憲法と自然権・自然法思想 214
 - (3) 基本的人権の保障・国民主権と法思想史 216
 - (4) 法思想史の観点から見る違憲審査制 217
 - (5) 生存権と法思想史 218
- 2 刑事、民事の裁判とのかかわり 220
 - (1) 刑事裁判と法思想史 220
 - (2) 法思想史研究と法解釈 222

引用・主要参考文献一覧

人名索引

事項索引

- | | |
|-------------------------------|-----|
| 〈コラム1〉ソクラテスの裁判 | 18 |
| 〈コラム2〉裁判の正義と立法の正義 | 30 |
| 〈コラム3〉トピカ的思考 | 44 |
| 〈コラム4〉近世の新ストア主義——リブシウス | 47 |
| 〈コラム5〉ドナティスト論争とアウグスティヌス | 61 |
| 〈コラム6〉アキナスの返還理論とサラマンカ学派 | 71 |
| 〈コラム7〉ホッブズとクック | 85 |
| 〈コラム8〉ロックとアメリカのインディアン | 92 |
| 〈コラム9〉ルソーとジュネーヴ共和国 | 104 |
| 〈コラム10〉ルソーと共和主義 | 119 |
| 〈コラム11〉カントの永遠平和論 | 132 |
| 〈コラム12〉ヘーゲルとプロイセン国家 | 144 |
| 〈コラム13〉民族精神とヴィルヘルム・アルノルト | 158 |
| 〈コラム14〉19世紀ドイツの法と法学の研究 | 169 |
| 〈コラム15〉ベンサム功利主義とトロッコ問題 | 181 |
| 〈コラム16〉オースティンの法命令説と現代イギリスの法理学 | 188 |
| 〈コラム17〉独立宣言とリバタリアニズム | 195 |
| 〈コラム18〉ルール懷疑主義とルウェリン | 210 |